

第 27 回県協連総会の概要と全体集約

労働大学まなぶ友の会全国県協連絡会議

事務局長 高原 敏朗

総会の概要

22年の第27回県協連総会は、未だコロナ感染が終息していない中ではありましたが、3年ぶりに全国から結集頂き対面による総会を開くことが出来ました。全国から結集された代表者、傍聴者の皆さん、大変お世話さまでした。それでは、第27回県協連総会の概要を下記に記します。

最初に特別報告として、JAL争議を粘り強くたたかう鈴木圭子さんから闘争報告を頂きました。改めて会社の不当な解雇に抗議するとともに、JAL争議の一日も早い解決を望むものです。ついては、12月8日JHU労組総決起集会が東京都文京区民センターで開催されるということですので多くの方々の参加をお願いする次第です。

さて、県協連総会は、
司会進行＝三宅敏之副会長
議長＝四役・奥山信義次長

県代・大西達紀県協代表

にお願いし議事を進行いただきました。

まず、高原県協連事務局長から日程説明、総会運営委選出をお諮りし、了承を得ました。

次は、須藤行彦県協連会長から「本総会の意義と課題」の提案し、更に今年の11月までに道半ばで亡くなられた物故会員の方を紹介し、心からの哀悼に意を表して黙とうを捧げました。ご冥福をお祈り申し上げます。

① 高知県協・岡崎国昭（おかざき くにあき）様・76歳

② 東京南部県協・木村利夫（きむら としお）様・69歳

次に県協代表者、傍聴者に皆さんから、議案を豊富化した一年間の運動の総括した発言を頂きました。19日＝9名、20日＝13名、計22名から頑張りを示す、貴重な活動報告でした。心から感謝申し上げます。

19日＝以下9名

① 東京南部県協・

② 東京南部県協・

③ 東京中部県協・

④ 関東埼玉県協・

⑤ 関東茨城県協・

⑥ 近畿兵庫県協・

⑦ 四国香川県協・

- ⑧ 四国徳島県協・
- ⑨ 関東神奈川再建・

20日=以下13名

- ① 東京北部県協・
- ② 東京西部県協・
- ③ 東京東部県協・
- ④ 東京中部県協・
- ⑤ 四国徳島県協・
- ⑥ 四国高知県協・
- ⑦ 関東埼玉県協・
- ⑧ 関東埼玉県協・
- ⑨ 関東山梨県協・
- ⑩ 関東埼玉県協・
- ⑪ 関東群馬県協・
- ⑫ 四国徳島県協・
- ⑬ 東京北部県協・

今年、一年間もズームオンライン会議で機関会議は行ってきましたが、各ブロック、各県協、各友の会でも創意工夫してズームやラインで相互交流を図り、大衆学習運動を止めることなく、展開して頂きました。本当にありがとうございました。そして昨日からの総会が対面で開くことができました。

皆さんの発言をお聞きして以下、全体集約とします。なお、当日は私事ですみませんが、体調不良で満足のいく集約ができませんでした。大変失礼しましたが、改めて思い起こし以下に報告します。

全国仲間の頑張りにまなぶ

第1は、コロナウイルス感染が終息しない中ではありましたが、須藤行彦会長の挨拶にもありましたようにこの全国総会に参加頂き心から感謝申し上げる次第です。

皆さんの発言をお聞きして以下、全体集約に代えます。

第1は、19日9名、20日13名、計22名の県代、傍聴、役員の皆様方からご報告頂きました。どの方からも、コロナ禍の中、第一学習会を砦に、大衆学習運動を展開し、職場生産点の闘いと仲間づくりを地道に進めている報告、また多くの仲間が職場を離れても、元職の仲間と共に、大衆学習運動を展開してきた報告を頂きました。

第2には、この3年間、機関会議はほぼオンライン会議で開催して、全国の仲間の健闘を確認し合えたことです。これが、今、対面での全国総会成功の鍵をなりました。

第3は、発言からうかがえる成果と運動を進めるうえで何が必要なのかという具体的な確信を掴んでいたことでした。

それは、とりも直さず、「四つの課題を三つにまなぶ」大衆学習運動が、人間らしく働き続け、生き続けるうえでなくてはならない運動であることの確信でした。

それは、運動を止めない、止めてはならないと、この3年間、学習と相互討論、仲間づくり、団結づくりを追求してきた素晴らしい報告から読み取れたことです。つまり、自分ひとりでは困難と思えることでも、仲間の支え合い、家族の支え合いがあれば、何とか頑張れるんだと、いう確信を生んだということです。

第4は、単位友の会の第一学習会、内外の五人組運動、家族ぐるみの運動を積み上げ、『月刊まなぶ』3000部到達運動をどう積み上げてきたのかということです。全国的は、減部傾向を脱却できない県協がある中、拡大を果たしてきた山梨県協のO・Hさんの報告、東京東部協のH・Eさんの報告に学ぶことができました。

第5は、今総会には、健康が優れずに参加できませんでしたが、福岡県協の川野房雄さんが言っていましたが、「運動の基礎は家族ぐるみの団結づくりだ!」という中身です。それは一番身近な仲間は家族だ、妻、夫、子らとの日常の話し合いの継続で、家庭の中に現れている矛盾、許せない要求を共通認識にして、社会を変える、職場を変える力にどう転化していくのかという課題です。それには、家族も同志として、共通の敵に立ち向かっていくための団結が必要だ、ということでした。

最後は、長年の懸案事項である組織問題、6ブロック統一に向けた努力ですが、三宅副会長のご尽力にも関わらず、3ブロックの保田さんとの話し合いは今年も進展を見せませんでした。しかし、今後の克服する課題として、これからも粘り強く、働きかけていくことが報告され、毎年言い続けてきた階級戦に勝ちぬくには、6ブロックの統一は欠かせない課題です。県協連は、これからも「条件をつけない」で、交流の再開をしたい、と臨んでいきます。

以上、6点を挙げて、全体集約とします。